



令和2年度 さいたま市立土呂中学校 学校だより

見沼のほとり

第 3 号

令和2年6月1日

学校教育目標

主体的に生きる人間の育成 <意欲・健康・豊かな心>

道は未来へ、世界へ

校長 富田 敦

いよいよ学校再開です。日常生活を取り戻す道が開けました。

生徒の皆さんが土呂中学校の門をくぐって教室に入ってくるのを心待ちにしていました。臨時休業中、生徒の皆さんには寂しい思い、つまらない思いをさせてきました。ホームページや担任からの電話連絡、オンライン学活などで家庭や生徒の皆さんと細々とつながってきました。課題提出の時、昇降口前で先生方と楽しそうに話す生徒を見て、学校再開への思いを一層強くもちました。これからは、新しい生活様式に倣い、新型コロナウイルス感染防止に努め、学校生活を充実させていきます。

右の絵は、2年生が臨時休業中の課題として描いた作品の一部です。「言葉と絵」を主題として今の「思い」を表現しました。生徒一人ひとりの「思い」に私の胸はいっぱいになりました。作品は、中面にも掲載しています。



上：金子 茉波さん 下：小山田 雫さん

「夢はかなうものだとは言いません。夢がかなうかどうかは運にもよります。しかし、一生懸命努力を続ければ道は開けます。努力した人には何かがついてくるものです。」

この言葉は今年度から土呂中学校サッカー部の部活動指導員として指導に当たる 宮本 誠さんが話してくれました。宮本さんは現在、フットボールエンターテイメント集団「球舞(きゅうぶ)」の代表を務め「マルコ」と名乗っています。「球舞」は国内、海外でのイベントに多数出演しており、リオデジャネイロオリンピックやマンチェスターユナイテッドの試合でも演技を披露しています。さいたま市の観光大使でもあります。

マルコさんは幼稚園からサッカーを始め、北区内の中学校を卒業後、16歳のときたった一人でブラジルに渡りました。「プロになりたい」と意識したのは小学生の時。三浦知良選手を目標とし、ブラジルに行くのは自然の成り行きであったとのこと。ブラジルでは約3年間過ごし、クラブのテストに合格したものの、契約にまでは至らず帰国しました。これにくじけず、今度はヨーロッパでプロサッカー選手になる夢をかなえようと、渡航費用を貯め、オランダに渡り、ベルギーやクロアチアにも行きました。オランダ、ベルギー、クロアチアでは毎日トレーニングをしながら、入団テストを受ける、という生活だったそうです。ここでもテストには合格しながら契約には至らず、夢であったプロサッカー選手になることができませんでした。確かに夢に手はかかっていた。

このように長くプロへ選手への夢というモチベーションが続いたのは「母を喜ばせたい。父に自分のよさを認めさせたい」「祖父を喜ばせたい」という思いがあったからでした。夢を何度も目の前に手繰り寄せ、つかみかけました。中途半端にあきらめることはせず、挑戦し続けました。サッカーは25歳までと決めていたため帰国し、一度はサッカーとは離れた仕事に就きました。しかし、縁があってオランダでのストリートサッカーで磨いた技術をパフォーマンスとして披露するチームを立ち上げることができたのです。

今では世界最高レベルの技を世界各地の大舞台で披露しています。三浦知良選手がパイオニアとしてブラジルに渡ったのと同様、マルコさんもこの道のパイオニアです。このような志をもち、世界に挑んだ方に指導してもらえることを誇りに、土呂中サッカー部にはさらに高みを目指すチームとなってほしいと願います。